

世界のオペラ歌手に聞く

取材・文＝中東生  
Text＝Shinobu Yaka

# トーマス・ハンブソン (Br)

レパートリー：オペラでの名声に安住することなく、現代オペラにも精神的に出演し続けるトーマス・ハンブソン。コロナ禍でもポジティブに、クラシック音楽を守るために奔走する、そのパワーの秘密を探るべくスイスの自宅を訪問した。

## 19歳のときの転機

「私はアメリカの小さな町に生まれ、父は原子力発電所の技師でした。音楽的素養を持っている母は90歳で健在です。歌やピアノが上手い姉が二人いて、私も8歳からピアノを習いましたが、先生に恵まれません。『ピアノの代わりに野球をやったほうがいい』と父を説得してやめてしまいました。教会の聖歌隊ではずっと歌っていましたが、当時は歌手になるという選択肢すら思い浮かびませんでした。政治学を学んでいた19歳のころ、音楽への愛情に気づきました。ロッセ・レーマンの弟子だった先生が、私の声や音楽性に注目してくれたのです。彼女がドイツリートから詩や文学、歴史や心理学まで学ぶ動機をくれました。合唱で出演するまでオペラは未知の世界でした。オペラに適した大きな声ではなくても、よい響きを持ち、音楽性や勘もありました。教会音楽からフランク・シナトラまで、なにを歌うにしても、その裏にあるドラマを表現したいと思っています」

## Interview with Thomas Hampson



コロナ禍のため、自宅に籠っているハンブソンは、気分転換に、庭でゴルフのバター練習をするとのこと

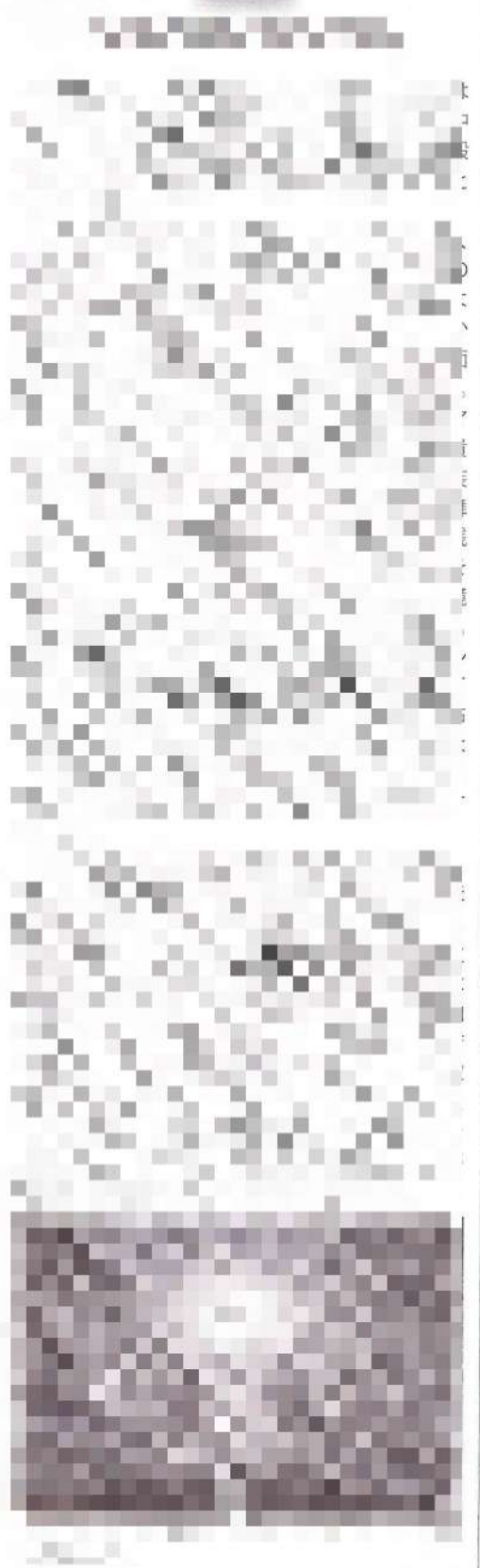
### 演じる楽しみ

「演じるときは、その人物はどんな本を読んで、どんな教育を受けて、どんな家族のなかで育ったかなど、想像します。たとえばスカルピアは人間洞察にすぐれた頭の切れる人間で、それが彼の危険人物たるゆえんです。すべての事柄より3歩先に進んでいて、モラルのかけらもなく、人を狩って操り、消すことに喜びを感じます。トスカには性的な感情も持っ

ていますが、それでも彼女を寝取ることより、権力をもって支配することのほうが重要なのです。カヴァアドッシは彼にとって「無」で、トスカ狩りの道具ではないのです。《トスカ》第2幕の音楽的構成はブッチーニの天才性を証明するもので、音楽がたたみかけ、トスカの感情を昂らせますが、スカルピアは涼しい顔をしているのです。そのようにスカルピアが危険に描かれていなければならないほど、スカルピア暗殺が英雄的に映るのです。こ

れまでのステレオタイプで二次元的なスカルピアには飽きていたので、チューリヒ劇場でのロバート・カーセン演出は新鮮でした。ネッロ・サンティから学んだことも多くありました。『ここはリズムを忘れていい』とか、『すべての音を正確に学ぶのは大切だが、このような緊迫したドラマでは一定の自由が必要で、歌詞の中身がダイレクトに伝わるこのほうが重要だ』といったことです。悪役を演じるときは、カーテンコールで拍手が

Column ①



少ないと成功している証拠です！嫌な役を演じるためには、家庭が大切です。自分が帰る場所がないと、悪役になりきれず、精神病になりそうです(笑)。次の初役はドン・アルフォンソ(モーツァルト《コジ・ファン・トゥッテ》)で、グリエルモ(同)が歳をとったらこうなるだろうというこの役を、いまの歳で演じられるのがとても楽しみです」

### 音楽とは日記である

「私にとって音楽は人間の日記のように思えます。文化はさまざまな言語で書かれた人類の履歴書です。いろいろな時代の人間について学ぶのは楽しく、それを音楽という言語で表現できるのは、なんて恵まれているのでしょうか。そのことに常に感謝し、絶えない興味や好奇心を感じています。私も暗くなったり、意地悪になったり、恐ろしく怠け者になったりしますが、活動的であることが好きなの



ハンブソン夫妻。今回のインタビューは自宅で行われた。

です。人生は冒険だと思えます。興味、知的欲求、才能、責任、それらの相関性を理解して、人に伝え、よりよく生きられるようにだれかを助けることができる、充実感、幸福感が得られます。それは素晴らしいことで、そこからまた私もなにかを学ぶことができます。人に教えるとき、親切でいたいものです。これまでに、ヴォルフガング・サヴァリツシユやネッロ・サンティ、レナード・バーンスティンやニコラウス・アーノンクールから学んだことですが、本当に才能のある偉大な人間は、その知識に満たない人間にも優しく、手を差し伸べるのです。レヴェル的に見て、これが最後の共演になるだろうと思う相手にさえも、ネガティブにならず親切で、最善をつくす姿を見てくださいました。彼らと学べてここまで成長できたことに永遠に感謝し、それを後進に還元したいと思っています。現在20人ほどの若者に、音楽を通していろいろな

ことを教えていますが、彼らにとって私との出会いがポジティブで切磋琢磨の源であってほしいです」

### 新しい聴衆も掴みたい

「現在、ストリーミングの世界で歌を披露するチャンスを作るために、IDAG IOの設立にかかわっています。これはデジタル図書館で、デジタルコンサートホールや学びの場もあります。 [www.stobalconcerthall.com](http://www.stobalconcerthall.com)。今回のコロナ禍はデジタルの必要性に気づかせてくれました。生演奏に代わるものではなく、生演奏を補完するものとしてとらえています。世界はこれからも最低6〜8カ月はデジタルを必要とするでしょう。これを機に、新しい聴衆もつかみたいです。世界中で経済再生が叫ばれています。芸術再生はだれも叫んでくれません。だから私が叫ぶのです」